

研究タイトル	人工芝の保温性の改善
要旨	<p>既存の人工芝は多くの施設やフィールドで導入されているにもかかわらず、保温性が高すぎるという欠点があり、表面温度の上昇は怪我の誘発など様々な問題が生じている。昨年度の研究で人工芝の保温性に対して、特に土壌の特徴や形状などによって、人工芝の表面温度に大きな影響を与えていることがわかり、人工芝の下にある土壌が温度上昇における重要な因子であることが示された。本研究では、どの土壌が温度上昇を最も抑えるか及びそれらに共通する特性を明らかにすることを目的とした。</p> <p>計3回の対照実験の結果、多孔質の特徴を有する土壌において、温度上昇後の最終的な温度が最も高くなることが示された。一方で、温度変化の推移など、人工芝の表面温度の上昇に関する一部の項目については、本実験の実験方法において、土壌の性質との直接的な関係は認められなかった。</p>